

NBF

公益財団法人 日本舞踊振興財団

Information

No. 59

2022 NEW YEAR

目次

- ◆名手訪問／対談 河口 洋一郎氏
(東京大学名誉教授／アーティスト)
- ◆日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る③⑤
東京大学文学部 名誉教授 古井戸 秀夫
- ◆役員会等の動き、役員等名簿
- ◆令和二年度 正味財産増減計算書
- ◆特別会員芳名
- ◆NBF 活動報告・行事予定

名手訪問

《対 談》

● 河口 洋一郎

(東京大学名誉教授 / アーティスト)

● 西川 均

(公益財団法人 日本舞踊振興財団 業務執行理事)

[敬称略]



(於: グランドヒル市ヶ谷)

西川 はじめまして。本日はよろしくお願
致します。先生は「グロースモデル」と
いうのを考えられ、作品が注目されて、
東大の名誉教授になられていらっしゃる
んですね。アートの部分と学問の融合の中
で、どういう過程で作品が生まれてくる
のかを教えてくださいませんか？

河口 僕は現代アートの進む世界とはかけ離
れているのでみんなに違いすぎると言わ
れています。種子島で育ったんですが、
幼少の頃から動植物の生育に興味を
持っていました。クラゲ、サンゴとか巻
貝とか、自己組織型の増殖するものなど
あらゆる生物に興味をもっていたんです。
美術系ではなくサイエンス系として。サイ
エンスとして生物の進化の独自の枠組み

に抱いた感動を、美しく表現したいと思っ
たんです。

西川 そこからコンピュータ・グラフィック
スによるアートの世界を構築されるに至
るまでの経緯とはどのようなことな
のでしょうか。

河口 作品が目の前にあって、生まれたり死
んだりするというのは、強いように見え
る遺伝子と弱いように見える遺伝子が
いて、それらさえも自然界のルールで生き
延びたり死んだりしていくわけです、作
品が。頭の中にはずっとアルゴリズムが
出てくるんです。ここ2、3年、肉筆画
を描き始めると、途中で〈ここで突然変
異だね〉〈ここで同じものがコピーされた

ね)とか、そういうことが頭の中で始まっているんです。コンピューターでやっていることに自分の脳が順応してるんです。僕の場合作る絵を頭の中でモデリングしているので、三次元の空間で出来上がっていくんですよ。

西川 図形的な概念がすごいです。種子島での生活が先生の創作活動の原点になっているようにお見受けします。

河口 そう。僕は小さい時からチョウチョとかトンボとか、亜熱帯色のカラフルな魚などを見て育ち、それは僕の楽園なんです。それが僕のアイデアの原点です。

西川 伝統芸能の世界でも小さい時からの稽古がすごく大切に、本当の意味での



自我がまだ目覚めないうちに基本的なこと、型を叩き込むということが必要です。

河口 子供の頃から五感を研ぎ澄ます環境、集中力の高い時期に生の自然のリアルな体験。何があってもぶれないように。だからお相撲さんの子供が早くから本能的に早く目覚めるとかありますよね。音楽家でも、直感的なものが研ぎ澄まされてすごいとか。そういう特徴的な生き様というのはすごい好きです。

西川 先生は生物の形の発生・成長・進化をプログラミング思考で、数理アルゴリズムを用いて導き出された方法で5億年後のはるか未来を生きる芸術生命体を創り続けていらっしゃるのですが、先生のお若い頃というのはコンピューターはないですよ。

河口 そうですね。コンピューターは大学に入ってから。大学で初めてディスプレイを見たんです。1975年のCG(コンピュータグラフィックス)に出会ってから芸術



©Yoichiro Kawaguchi



©Yoichiro Kawaguchi

と数学的なものを一緒に融合させてみようと思いはじめました。プログラミングする時は、ゼロから何もないのに立方体とか球とかの形が空間に出てくるんです。その時に『新しい生命体を作れるかも』と。プログラミングは大変でした。当時は授業も皆無でしたから。コンピューターが原始的で遅いから、数分の作品を作るのに1年かかるんです。でも僕は何かを生み出せるかもしれないと。ゼロから何かを生成させるというのは30年後、50年後面白いかもしれない、との直感に賭けてみようと思って。そしてプログラミングをして形を生み出すことをしていたら、アートには生物のインテリジェンスをとりいれよう、という発想になってそこから全てが始まりました。僕は数学とプログラミングの方から来てるから、アートと対極からきてるのね。でも今の学生は表現するツールがあるので容易にやっけてしまいますね。これからも独自の開発をやってもらいたいですね。

西川 確かにそうですね。我々の舞台でも大道具の背景を昔は美術の人が手描きだったんです。なかなか味わいがあったのですが、今はそれはパソコン上で出来てしまうんです。簡単に早くできますが、

深みというものがありませんね。

河口 今はコンピューターが速くなったので、昔1年かかったものがへたをしたら、1日で出来てしまいます。僕の創作した生物、未来の生物に情感を与えるにはどうしたらいいか、と考え、インテリジェンスをアートに取り入れると面白いなと思ったんですよ。

最近、小学生からプログラミング教育思考が始まりましたが、発想やアイデアを有効に応用することによって舞台に貢献できるようになりますね。

西川 そうなってほしいです。伝統芸能を次世代へ繋げるということは大きな課題ですから。

河口 これからの子供達が、どういう興味の方向に持ってくれるかを考えて、表現者が常に先端を引っ張っていかないといけない。興味をどうやって取り込んでいくか。アートや芸能の世界をどう取り込んでいくかを考えると、結構可能性があって面白いかな、と。そこに欧米の人達、アジアの人達が興味を持ってくれば嬉しい。

舞台をどうやって魅力的にするかというのは、最小限の世界での隠し技が



©Yoichiro Kawaguchi

あった方が良いのでは。本来の伝統の舞台を守りながら、万博のようなところで、未来の百年後の日本舞踊はこれだ！というようなものを見せて百年後の人材を集めるとか。欧米アジアの世界でも日本の伝統芸能の舞台を強くしないと。一般の興味をひかないと新生ファンが出て来ないですから。

あと、人口知能AIでテクノロジーを吸収して利用していくのが一番強いかな、と思います。そこに埋没するのではなくて、AIの知識を舞台に取り込んで行って、若者の興味に繋げるといこと。人間にしかできない技を磨いていくという事、サイエンスをアートに取り込んだ作品、それらの中に生き延びていく可能性があるのでは。

僕は今回、自分のアートの場合はサイエンスの中で、この5億年間の生物の



©Yoichiro Kawaguchi

進化を見ながら、5億年後の未来を見たいと思っています。冬眠を経て、5億年後の未来の生物を作りたいんです。5億年後にもう一回生きていたいんです。これができるようになると伝統の未来がまた面白くなりますよね。

西川 興味深いお話をたくさんありがとうございました。

文責 財団

河川 洋一郎 (かわぐち・よういちろう) 氏 プロフィール



アーティスト / 東京大学名誉教授 霧島アートの森館長
一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ) 会長
1995年第100回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表作家に選ばれる。

2013年紫綬褒章受賞

文化庁メディア芸術祭初代総合審査委員長 DCAJ主催 (経済産業省) 共催「デジタルコンテンツグランプリ」審査委員他、多数のメディア系大会審査委員長等を務める。サイエンスをアートに取り込んだCG作品、独自プログラムのGrowth Modelによる自己増殖する作品で1980年代より世界のメディア系コンテストでグランプリを重ねる。我が国のロボティクス、インタラクティブアートの先駆者。Siggraph Academy 殿堂入りを果たす。(アジア人初) 現在は大型肉筆画も描き、CG映像、立体作品、肉筆画による表現での作品展は世界各地で好評を博している。また、研究者として国外約80都市にて講演。

山姥物の系譜⑤

東京大学文学部 名誉教授
古井戸 秀夫

長唄には、「冬の山姥」と「四季の山姥」の二曲があります。「四季の山姥」は、十一代目杵屋六左衛門（のちの根岸の勘五郎）が南部侯の求めに応じて開曲した御座敷歌でしたが、のちに踊りの振りが付けられて素踊りの流行曲になりました。「冬の山姥」は、歌舞伎の大舞台で初演された女形の舞踊曲の一コマでしたが、現在では古い踊りは絶えて長唄の曲だけが伝わっています。新たに振りを拵えるとすると、やはり素踊りになるのでしょう。

「冬の山姥」は、文化六年（一八〇九）四月江戸中村座の『邯鄲園菊蝶』という「四季の所作事」の冬の部で、下の巻には「金太郎」が付きまして。山姥に扮したのは瀬川仙女こと三代目菊之丞、金太郎を踊ったのは倅の路考こと四代目菊之丞でした。仙女の父、路考にとっては祖父である二代目瀬川菊之丞路考の三十七回忌追善の舞踊曲でした。「四季の所作事」の分担は、春の「子守」は路考、夏の「女伊達」は仙女、秋の「小袿重」（花車の白拍子）は路考、冬の山姥は親子共演でした。全体の構成は、能の『邯鄲』の廬生に倣い、吉原の傾城が微睡むとその夢の中に四季折々の光景が現われては消える、というものでした。「邯鄲」の「四季の所作事」と称されるこの構成は、二代目の十三回忌追善『春昔由縁英』で仙女が工夫したものでした。それを当代の路考に譲る、芸譲りの追善でもありました。

「冬の山姥」は、別名を「足曳きの山姥」と称しました。謡曲の「足曳きの山廻り」に因む唄い出しの文句から付けられた通称でした。内容は、山姥の道行から短い述懐があり、我が子の金太郎を呼び出します。「雪やこんこん」の童唄で金太郎は登場、玩具や熊と遊ぶ姿を見て、山姥は「山廻り」で姿

を消すのでした。道行では、「峰の梢は雪折れの」にはじまり「笠もる雪」「身の氷柱」など冬の寒さを厭う文句ばかりでした。「山廻り」になると、「春は花さき、もみじも色濃き、夏かと思えば時雨して、四季折々を眺めつつ」と山姥のほんらいの四季の山廻りになるのでした。

山姥の所作事を三代目菊之丞がはじめて踊ったのは、安永九年（一七八〇）七月市村座の『山姥四季英』でした。二十九年、三代目はまだ数え年で三十歳の若盛りでした。元祖菊之丞三十三回忌追善として、『相生獅子』以来の瀬川の家芸である長唄の「四季の所作事」を踊ったものでした。秋の「黒木売」と冬の「浮かれ座頭」は「うしろ面」でした。「うしろ面」を使って二役を踊り分ける長唄の所作事も、元祖菊之丞が工夫した家芸でした。春の「山姥」は元祖ではなく、二代目に由縁の演目でした。二代目は、七年前に三十二歳の若さで惜しまれつつこの世を去りました。その面影を重ねたものでした。夏の「金太郎」は、三代目が新たに工夫したものであったでしょう。頑是ない男児の踊りの体験から、三代目はのちに『羽根の禿』など幼い少女の踊りを創り出すことに成功を見るのでした。

二代目菊之丞の「山姥」は長唄ではなく、富本の浄り所作事でした。宝暦十二年（一七六二）秋の市村座で、浄り名題は『織殿軒漏月』でした。二代目は二十二歳、三代目が常磐津の「古山姥」を踊る二十三年も前のことでした。上下二段で、上は「花山院の道行」、下が「山姥」でした。ほんものの公時と、分身の公時と、公時が二人出るので「二人公時」と呼ばれる浄りでした。二人の声が笈のように響くので、このときにはじめて「こだまの合方」が工夫されたと伝

えられています。狂言作者は豊後節の名手、壕越二三治でした。物語は四天王の昔噺でも、描かれる場面は江戸でした。山姥の山廻りの春は、上野谷中や飛鳥山の桜でした。夏は両国橋の五百羅漢を見ながらの船遊山。秋は三囲でした。当時の見物は、金太郎の話は今よりずっと身近に感じていたのでしょうか。

最後に根岸の勘五郎の『四季の山姥』に触れておきましょう。勘五郎の記録した『御屋敷番組控』の文久二年（一八六二）三月七日、南部侯不二見御殿の番組に見える「新山姥、開き」がこの『四季の山姥』の初演でした。「控」に「御作」とあるので南部

老公自身の作詞されたものでしょう。謡曲のクセ「遠近の」から、すぐに山廻りになるのが特色でした。山姥は、遊女八重桐の昔を思い出します。春は手練手管で客を待ち、夏は涼しい蚊帳の内、秋は縁先で「しんき節」の三味線を弾き、畳算で客を待つのでした。冬になると遊廓を離れ、冬は谷間に冬籠もり、鶯の片言や梅の苔を見ながら、「ちりや〜、ちり〜ぱっと」胡蝶のように散る、雪の姿を楽しむのでした。なお、「切られ与三」の「見初め」に使われる浜唄「沖に白帆や千鳥立つ」は、のちに南武家の奥女中が秋と冬の間に増補したものだと伝えられています。



役員会等の動き

理事会

開催年月日	議事事項	会議での結果
令和3年3月22日	第1号議案 令和3年度事業計画(案)について	書面決議により可決
	第2号議案 令和3年度収支予算(案)について	書面決議により可決
	第3号議案 令和3年度評議員会開催について	書面決議により可決
令和3年5月24日	第1号議案 令和2年度事業報告(案)について	書面決議により可決
	第2号議案 令和2年度決算報告書(案)について	書面決議により可決
令和3年6月30日	第1号議案 理事長選定について	書面決議により可決
	第2号議案 業務執行理事選定について	書面決議により可決

評議員会

開催年月日	議事事項	会議での結果
令和3年6月16日	第1号議案 令和2年度事業報告(案)について	書面決議により可決
	第2号議案 令和2年度決算報告書(案)について	書面決議により可決
	第3号議案 理事候補選任について	書面決議により可決

公益財団法人日本舞踊振興財団 役員等名簿

(50音順・敬称略)

■理事長

青山 幸恭

■業務執行理事

西川 均
(西川 箕乃助)

■理事

田中 正行

登 誠一郎

福田 博

藤間 高子
(藤間 勘祖)

三隅 治雄

水野 豊

■監事

小山 敬次郎

半澤 進

■評議員

内堀 祐子
(西川 祐子)

越智 久男

近藤 瑞男

龍居 竹之介

田中 英機

田村 憲
(西川 扇二郎)

中村 作二

藤田 康幸

古井戸 秀夫

丸茂 美恵子
(丸茂 祐佳)

令和二年度 正味財産増減計算書 NBF

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1, 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①基本財産運用益	150,826	147,128	3,698	
基本財産受取利息	150,826	147,128	3,698	
②特定資産運用益	774	1,087	△ 313	
特定資産受取利息	774	1,087	△ 313	
③受取会費	3,945,000	4,390,000	△ 445,000	
個人会費	2,345,000	2,490,000	△ 145,000	
特別会費	1,600,000	1,900,000	△ 300,000	
④事業収益	2,225,800	3,508,670	△ 1,282,870	
青少年に対する舞踊普及事業収益	7,800	946,670	△ 938,870	
舞踊家の海外派遣及び招聘事業収益	0	0	0	
在日外国人、留学生啓蒙普及事業収益	0	0	0	
自主公演活動事業収益	0	150,000	△ 150,000	
日本舞踊の新人養成事業収益	216,000	252,000	△ 36,000	
講演会の開催事業収益	0	130,000	△ 130,000	
日本舞踊に関する広報活動等事業収益	0	30,000	△ 30,000	
制作協力等支援事業収益	2,000,000	2,000,000	0	
衣裳楽器等の貸与事業収益	2,000	0	2,000	
⑤受取補助金等	1,258,031	858,080	399,951	
受取国庫補助金	1,258,031	344,000	914,031	
受取地方公共団体助成金	0	514,080	△ 514,080	
⑥その他の収益	2,000,625	619	2,000,006	
受取証券利息	25	19	6	
有価証券運用益	600	600	0	
雑収益	2,000,000	0	2,000,000	
経常収益計	9,581,056	8,905,584	675,472	
(2) 経常費用				
①事業費用	6,029,522	6,761,683	△ 732,161	
給法料	1,046,337	1,126,461	△ 80,124	
定額福祉通搬費	14,999	12,619	2,380	
旅通費	33,042	75,804	△ 42,762	
消耗什器備品	383,481	85,328	298,153	
消耗什器備品	10,030	0	10,030	
消耗什器備品	169,141	6,210	162,931	
消耗什器備品	212,245	0	212,245	
印刷製水借謝料	613,195	1,126,540	△ 513,345	
印刷製水借謝料	201	4,603	△ 4,402	
印刷製水借謝料	19,600	498,308	△ 478,708	
印刷製水借謝料	1,822,000	3,389,400	△ 1,567,400	
印刷製水借謝料	0	220,484	△ 220,484	
印刷製水借謝料	1,230,802	0	1,230,802	
印刷製水借謝料	474,449	215,926	258,523	
印刷製水借謝料	1,862,899	3,306,757	△ 1,443,858	
②管理費用	184,653	198,789	△ 14,136	
給法料	2,655	2,228	427	
給法料	0	261,155	△ 261,155	
給法料	5,838	107,350	△ 101,512	
給法料	63,576	480,912	△ 417,336	
給法料	1,421,200	0	1,421,200	
給法料	1,770	0	1,770	
給法料	44,636	73,579	△ 28,943	
給法料	37,455	136,180	△ 98,725	
給法料	2,805	30,800	△ 27,995	
給法料	51	1,038	△ 987	
給法料	0	101,292	△ 101,292	
給法料	0	1,345,800	△ 1,345,800	
給法料	2,700	6,100	△ 3,400	
給法料	95,560	561,534	△ 465,974	
経常費用計	7,892,421	10,068,440	△ 2,176,019	
評価損益等調整前当期経常増減額	1,688,635	△ 1,162,856	2,851,491	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	1,688,635	△ 1,162,856	2,851,491	
2, 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	1,688,635	△ 1,162,856	2,851,491	
一般正味財産期首残高	109,798,664	110,961,520	△ 1,162,856	
一般正味財産期末残高	111,487,299	109,798,664	1,688,635	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	111,487,299	109,798,664	1,688,635	

特別会員 ご芳名

日本舞踊振興財団では、特別賛助会員制度を設け、下記の方々にご支援を
いただいております。是非ご参加をお願い申し上げます。

- ◎会費 1口 10万円(1年間)
- ◎特典 会報のご送付
会報・公演プログラム等にご芳名掲載
財団主催イベントにご招待

飯 田 信 子 (飯田不動産 代表)

西 川 井 扇

飯 田 良 枝

(株)ビデオフォトサイトウ (代表取締役 海老原利明)

(有)かつら大阪屋 (代表取締役 長坂誠一郎)

(株)ホテルオークラ東京 (代表取締役社長 成瀬正治)

歌 舞 伎 座 舞 台 (株)

藪 本 俊 一 (株)古美術藪本 代表取締役)

(有)ギャラリー竹柳堂 (代表取締役 藤澤繁)

山 本 化 学 工 業 (株) (代表取締役 山本富造)

松 竹 衣 裳 (株) (代表取締役会長 武中雅人)

(株) 吉 岡 (代表取締役 清水喜重郎)

(株)しるくらんど (代表取締役 濱口友宏)

(株)瀧川峰晴堂 (代表取締役 瀧川明行)

東 京 信 用 金 庫 (理事長 半澤進)

東 信 企 業 (株) (代表取締役 坂口登志男)

◆財団の趣旨にご賛同いただける方は財団事務局までご連絡ください。特別会員について
ご説明いたします。その上でご希望の方には申し込み書類をお送りさせていただきます。

財団事務局 TEL 03-3354-5496

NBF活動報告

- ◆文化庁伝統文化親子教室—新宿区日本舞踊こども教室
日 時：令和2年10月4日(日)～
令和3年1月17日(日)
会 場：新宿区四谷地域センター
内 容：新宿区文化体験プログラムをさらに発展させ、日本舞踊の基本を曲にあわせて踊る。最終日に発表会を行った。

- ◆新宿区小学校日本舞踊鑑賞教室
日 時：令和3年2月2日(火)
会 場：区立富久小学校
内 容：小学5年生を対象に日本舞踊についての簡単なレクチャーを行いワークショップのち、日本舞踊の一部を上演した。

- 日 時：令和3年2月9日(火)
会 場：区立早稲田小学校
内 容：小学6年生を対象に日本舞踊についての簡単なレクチャーを行いワークショップのち、日本舞踊の一部を上演した。

- 日 時：令和3年10月13日(水)
会 場：区立早稲田小学校
内 容：小学5年生を対象に日本舞踊についての簡単なレクチャーを行いワークショップのち、日本舞踊の一部を上演した。

- 日 時：令和3年11月17日(水)
会 場：区立戸塚第一小学校
内 容：小学5年生を対象に日本舞踊についての簡単なレクチャーを行いワークショップのち、日本舞踊の一部を上演した。

- ◆仕舞・狂言教室発表会
日 時：令和3年3月15日(月)
会 場：財団名誉会長 西川扇藏宅2階稽古場
内 容：1年間の稽古の成果を発表する機会とし日頃の成果を披露した。

- ◆宇都宮市日本舞踊鑑賞教室
日 時：令和3年6月15日(火)
会 場：宇都宮市文化会館 小ホール
内 容：宇都宮市内公私立小学校高学年児童並びに保護者を対象にした事業。レクチャーワークショップを行い、「手習子」「操り三番叟」を実演した。

NBF行事予定

- ◆文化庁伝統文化親子教室—新宿区日本舞踊こども教室
日 時：令和3年10月17日(日)～
令和4年1月16日(日)
会 場：西川扇藏名誉会長宅稽古場 2階
内 容：日本舞踊の簡単なレクチャーを行い、その後日本舞踊の曲に合わせ概ね1曲稽古をする。

- ◆第55回講演会
日 時：令和4年1月31日(月)
会 場：日本橋公会堂
内 容：舞台衣裳、着付けのいろいろ part2
講 師：松竹衣裳(株) 細田周作氏

- ◆幼稚園おどり教室
日 時：令和4年2月22日(火)
会 場：東洋英和幼稚園
内 容：幼稚園児を対象とし日本舞踊に親しむよう企画。啓蒙活動として行う。

- ◆仕舞・狂言教室発表会
日 時：令和4年3月19日(土)
会 場：杉並能楽堂
内 容：1年間の稽古の成果を発表する機会とする。



訃報

当財団発足当初より、長年にわたり理事としてご尽力頂きました、大野輝康様が去る7月10日にお亡くなりになりました。ここに哀悼の意を表しますとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

公益財団法人日本舞踊振興財団 「NBF」 No.59

発 行 公益財団法人日本舞踊振興財団
〒162-0066 東京都新宿区市谷台町
8番12号

印 刷 株式会社デイエムピー

発行日 令和3年12月



公益財団法人 日本舞踊振興財団

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町 8 番 12 号

TEL : 03-3354-5496

FAX : 03-3353-5634

<http://www.nihonbuyo.or.jp>

E-mail: office@nihonbuyo.or.jp